

事例報告

特別支援学校小学部児童に対する
自発的な「ありがとう」が
言えるまでの指導

児童の実態

- 小学部児童 知的障がい
- 発達年齢 3歳7ヶ月
- 発音の不明瞭さがあるため、音韻の指導をしている。
- 疲れやすく、集中の持続時間が短い。
- 注意や集中がそれやすく、相手の話を最後まで聞くことができないことがある。
- 称賛は拍手を交えて行くと伝わりやすい。
- アルバム写真や絵画を見るのが好き。
- 一度覚えたことは、忘れにくい。
- 休憩時間などに独語を言って過ごすことが多い。
- 周囲の大人から、身の回りのことを手伝ってもらうことが多々ある。

教員の願い

【日常のコミュニケーションの状況】

- ・自分から話しかけたり要求したりすることが少なく、受動的な姿が目立つ。
- ・基本的な挨拶は、自分から行うことがほとんどなく、他者から挨拶されて、返事をするよう促されると返すことができる。

【願い】

- ・自分から周りの人に挨拶をしてほしい。
- ・自分から他者とコミュニケーションをとってほしい。
- ・自分の気持ちや思いを自分から発信できるようにしてほしい。

AI-PACの俯瞰図の中の「基本的挨拶」をターゲットにして指導する。

俯瞰図（拡大）

て（人× 作）	2語文（色× 名詞）	事実の YES/NO	異同
②	②	②	②
で挙手	基本的挨拶	クリック	国のめ
②	80	②	②
合わせ	ジグソーパ	マッチング	マッチ
			（重な

[👁️ 長期的な傾向を見る](#)

説明

【Sd】 「どうぞ」
 【R】 「ありがとう」
 【Pt】 「どうぞありがとう」とすぐにPtし、徐々に、「どうぞ、あり...」→「どうぞ、あ...」→「どうぞ」とPtをフェイディング

項目

どうぞーありがとう
 ねえねえーなあに？
 いくよーいいよ

いってきますーいってらっしゃい
 いーれーてーいいよ
 おはようーおはよう
 こんにちはーこんにちは
 おやすみーおやすみ
 さようならーさようなら
 またねーバイバイ
 元気？ー元気

教材

かけ声の続き・基本的挨拶リスト
<http://adds.wp-x.jp/wp-content/uploads/2017/04/%E3%81%8B%E3%81%91%E5%A3%B0%E3%81%AE%E7%B6%9A%E3%81%8D%E3%83%>

動画



【会話】自己情報

標的行動

かけ声・あいさつ	チェック
よーいーどん	<input checked="" type="checkbox"/>
いちにのーさーん	<input checked="" type="checkbox"/>
さんにいいちーゼロ	<input checked="" type="checkbox"/>
レッツーゴー	<input checked="" type="checkbox"/>
出発ー進行	<input checked="" type="checkbox"/>
えいえいーおー	<input checked="" type="checkbox"/>
どうぞーありがとう	<input type="checkbox"/>
ねえねえーなあに？	<input type="checkbox"/>
いくよーいいよ	<input type="checkbox"/>
いってきますーいってらっしゃい	<input type="checkbox"/>
いーれーてーいいよ	<input type="checkbox"/>
おはようーおはよう	<input checked="" type="checkbox"/>
こんにちはーこんにちは	<input checked="" type="checkbox"/>
おやすみーおやすみ	<input checked="" type="checkbox"/>
さようならーさようなら	<input checked="" type="checkbox"/>
またねーバイバイ	<input checked="" type="checkbox"/>
元気？ー元気	<input checked="" type="checkbox"/>

本児の実態

(指導の手続き①)

目標

担任から「どうぞ」と物を渡された時に自発的に「ありがとう」と言って受け取ることができる。

指導期間

令和元年9月17日～

指導場面

課題学習，生活単元学習の時間

<課題学習の時>

①課題を手渡しするときに「どうぞ」，受け取った後の「ありがとう」も教員が言う。教員の手はマイクを持つジェスチャーで(教員)「どうぞ」(対象児童)「ありがとう」と対象児童に近寄せる。

②対象児童から「ありがとう」の言葉が言えるようになったら教員の「ありがとう」の言葉かけはフェードアウトする。

③「ありがとう」の返事が流暢にできるようになってきたら下線部のプロンプトをフェードアウトする。

<生活単元学習の時>

渡す物を写真にして課題学習の時と同じ手続きですすめる。1時間中できるだけやりとりを多く設定し，反復して行う。

(指導の手続き②)

(指導の手続き①)



般化目標

友だちや教員，家族に「どうぞ」と物を渡されたときに自発的に「ありがとう」と言うことができる。

般化指導開始

令和元年10月7日～

指導場面

日常のいろいろな場面において

※記録は課題学習，生活単元学習，音楽の時間にとる。

①物の受け渡しのとき，「どうぞ」と言葉をかけることを共通理解する。

②(指導の手続き①)と同じ要領でマイクのジェスチャーや「どうぞ，ありがとう」の言葉かけを行う。

③マイクのジェスチャーや言葉かけは様子を見ながらフェードアウトする。

※いずれの場合も「ありがとう」が言えたときには拍手と言語称賛を行う。

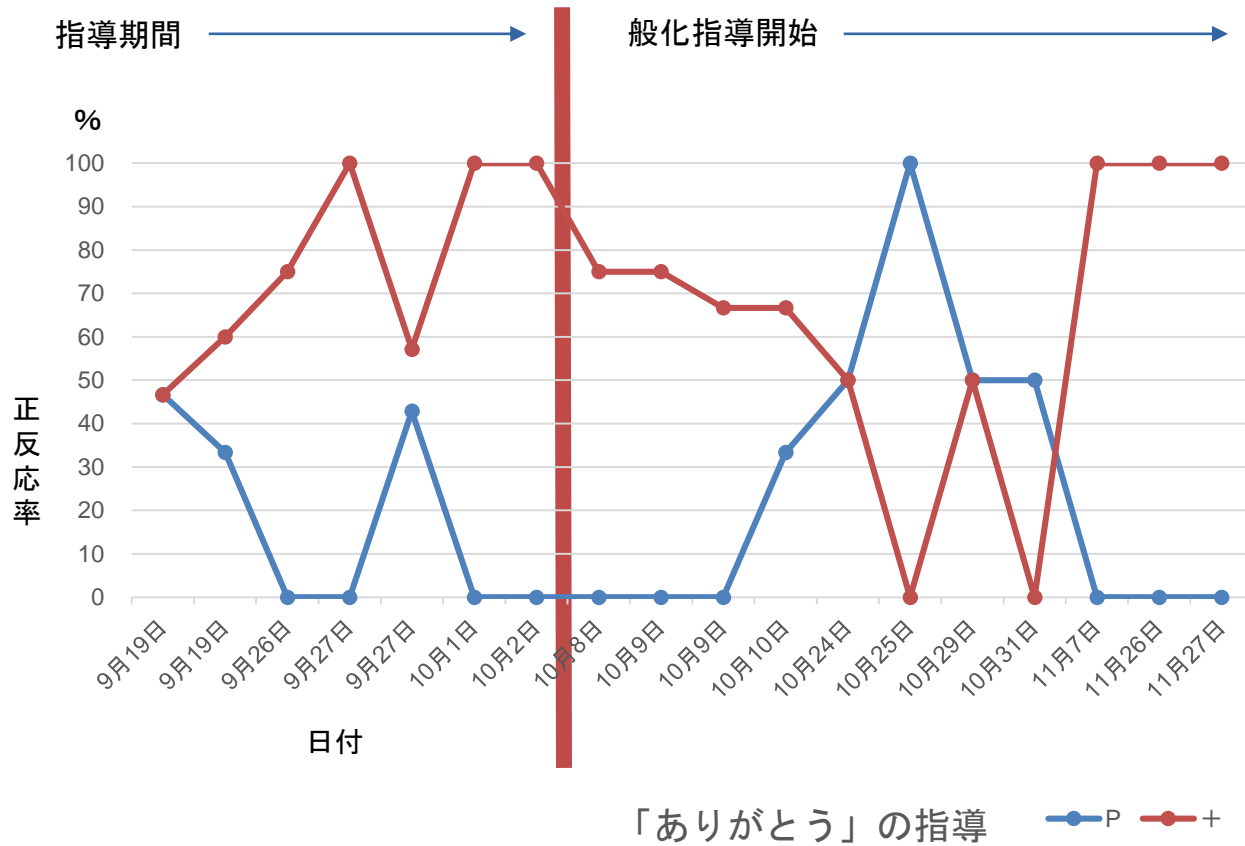
記録方法

- AI-PACを使用して記録する。
 - + 「言えた」
 - P 「支援をうけて言うことができた」
 - 「言えなかった」
- 手元にタブレットが準備できない場合用に、記録用紙も準備しておく。

記録①

①	2019/9/19	p p p + p p + p + + + - + p +	担任による指導
②	2019/9/19	- p p + p p + + p + + + + + + +	
③	2019/9/26	+ - + +	
④	2019/9/27	+ + + +	
⑤	2019/9/27	p + + + p p +	
⑥	2019/10/1	+	
⑦	2019/10/2	+	
⑧	2019/10/8	+ + + -	般化指導開始
⑨	2019/10/9	+ - + +	
⑩	2019/10/9	+ - +	
⑪	2019/10/10	p + +	
⑫	2019/10/24	p + p +	
⑬	2019/10/25	p	
⑭	2019/10/29	+ p p +	
⑮	2019/10/31	- p	
⑯	2019/11/7	+ + +	
⑰	2019/11/26	+ +	
⑱	2019/11/27	+ + +	

記録②



指導の成果①

- 「どうぞ」の言葉かけに対して、「ありがとう」と言うことができるようになった。エコラリアの回数が減った。
- 取り組み開始後、「いってらっしゃい」「いってきます」「ただいま」「おかえり」のやりとりができるようになった。
- 登下校時に自分から挨拶することができるようになった。
- 挨拶だけでなくコミュニケーションの幅が広がり、他者との簡単な会話ができるようになった。
- 自分から友だちを遊びに誘う場面が見られるようになった。
- 学部内で教員・児童間の「どうぞ」「ありがとう」のやりとりや「おはよう」「さようなら」など挨拶の輪が広がった。

指導の成果②

- 「ありがとう」だけでなく、「どうぞ」と言葉をかけて物を渡すことができるようになった。
- 受け取りたくないものに対して「ありがとう」とは言わず、また物も受け取らないという姿が見られるようになった。このことから形式的なやりとりに陥らず、本人の意思を示すことができるようになった。さらに、本児の「ありがとう」には少なからず感謝の気持ちも込められていると感じられるようになった。

ここが成功のポイント①

- ゆっくり「どうぞ」と言葉をかける。
- 取り組み始めは「どうぞ」「ありがとう」のやりとりの回数をできるだけ多くとるように設定した。
- 定期的に「どうぞ」「ありがとう」を言う練習ができるように実施場面を設定した。
- 「ありがとう」の返事が流暢に言えるまではプロンプトの回数を一定数維持した。
- 本児の実態から、言葉による教示なしで「どうぞ」「ありがとう」のやりとりの理解を高めることができた。

ここが成功のポイント②

- 指導期間中は、「ありがとう」に『感謝の気持ちが込められているかどうか』，『挨拶ができると気持ちがいい』といったことについては指導手続きには含めず，形式的なやりとりに終始した。
- 取り組み始めの称賛はオーバーなくらいに行った。
- 教員間，保護者と指導内容・手続きについて共通理解を徹底した。